



市民研究員候補・歴史研究活動助成・ 飯田歴研賞2023候補作品 を募集します

歴史研究所では、飯田・下伊那を対象とした地域史研究のさらなる発展を目指して、研究者の養成、研究活動への助成、優れた研究成果の表彰を行っています。2023年度も市民研究員候補、歴史研究活動助成、歴研賞候補作品を募集しますので、奮ってご応募ください。

(各募集の要項や申込書等は歴史研究所のホームページよりダウンロードできます。)

〈市民研究員候補募集〉

市民研究員候補として、市民研究員養成課程の2年間で、飯田・下伊那の地域史にかかわるテーマの研究に取り組んでいただきます。研究員の指導のもと、各種の教育プログラムを通して、歴史研究の基礎を学びながら、修了論文の作成を目指します。課程修了後は市民研究員となり、歴史研究所の調査研究活動にご参加いただけます。

- ★募集人数 若干名
- ★応募方法 要項をご確認のうえ、申込書を歴史研究所へ提出してください。
- ★募集期間 5月6日(土)～7月29日(土)必着
- ★審査結果 書類審査と面接を行い、8月末までに採否をお知らせします。

〈研究活動助成募集〉

飯田・下伊那を対象とした歴史研究活動に経費の助成を行います。

- ★応募資格 ①飯田市内や下伊那郡内に住所を有する団体、②卒業論文を作成する大学生、または修士論文を作成する大学院生
- ★研究期間 2024年2月まで。大学院生は2025年2月までも可。
- ★助成金額 10万円以内。大学院生が2年間助成をうける場合は、2年間で15万円以内。
- ★応募方法 要項をご確認のうえ、申請書と研究計画書を歴史研究所へ提出してください。
- ★募集期間 5月6日(土)～7月29日(土)必着
- ★審査結果 書類審査などを行い、8月末日までに本事業に適した研究か審査します。
- ★助成金の交付 研究期間の終了後、実績報告書や成果報告などにより、本事業の目的や助成条件に適した研究か審査して、助成金を交付します。

〈飯田歴研賞2023 候補作品募集〉

前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に歴研賞（著作賞、論文賞）や奨励賞をお贈りしています。その候補作品を募集します。自薦・他薦は問いません。

- ★対象作品 2022年4月～2023年3月に刊行・発表された著書・論文（自費出版を含む）
- ★募集期間 5月6日(土)～6月30日(金)（作品を持参または郵送してください）

お世話になりました

～昨年度で離任された研究部スタッフ3名の方々からご挨拶をお寄せいただきました～



5年間をふり返って

太田 仙一 研究員

5年間、大変お世話になりました。深く御礼申し上げます。歴史研究所は吉田伸之所長のもとで常に積極的に様々なことに挑戦していく組織で、なかなかそれに見合った働きが出来なかったな、というのが正直なところです。とても多くのことを学べる場所でもあり、自分自身が死ぬまで気がつくこともないままにいたかもしれない得難いことを、勉強させてもらったと思っています。助けて下さったすべての皆様に感謝しています。力不足でうまくできなかったことはお詫びします。

思い出深いことや伝えたいことは本当にたくさんあるのだけれど、言葉にしたら何だか安っぽくなってしまいう気がするので、あんまり語らないようにします。ただ、私のような人間を拾って暖かく受け入れていただいた歴史研究所の、そして飯田の皆さんへの恩義は忘れることなく生きていきたいです。これ以上ないほど良くしていただいたのに、大した仕事が出来ずに任期を終えてしまったのは恥ずかしい限りなのだけれど。飯田・下伊那の地域史研究は、これから先もひっそりと続けていきます。ここで学んだことや得たものや、歴史研究所や飯田・下伊那で出会えた人々への思いは、研究や行動でいつかしっかり皆さんに伝えられるように頑張ります。

飯田市歴史研究所の、そして飯田・下伊那で過ごされる皆さんの未来が幸多きものであることを、心より祈っております。素晴らしい5年間を過ごさせていただきありがとうございました。



風景の歴史を描く

福村 任生 研究員

建築史担当の研究者として、4年半の短い間でしたが、たいへんお世話になりました。これまで同分野で、先輩の金澤雄記さんと樋口貴彦さんが本棟造民家や遠山地方の民家の研究を積み重ねてこられました。こうした成果に続いて自分が取り組みたかったテーマは、建築だけでなく、その立地環境も含めたトータルな地域景観の歴史、つまり、風景の歴史を描くということでした。そこには、大火で消えてしまった戦前の飯田町の景観、三六災害の影響で大きく変容した川路村の景観といった、現存しない景観も含まれます。これらの失われた風景を研究するう

えで、現存する民家遺構だけでなく、明治期の役場史料にみられる建物台帳や地図史料を駆使することが重要だという点を強調しておきたいと思います。

日本の地域景観は、さまざまな生業を営んだ地域住民の歴史が刻まれたものといえますが、近代以降の土地利用の合理化、モータリゼーション、住宅産業の工業化など、時代の趨勢に流されて、その痕跡すら残さずに失われるケースも多くみられます。たしかに、東京・名古屋・大阪などの大都市は、戦後の焼け野原から復興再建された開発主義の賜物ですが、飯田・下伊那のような戦火を逃れた農村地帯でも、同じような開発主義に依存し続けて良いものでしょうか。歴史研究所の中期計画に掲げられた「地域遺産の再発見」という目標を達成するうえで、建築や風景の歴史を紐解く研究がこれからも不可欠と考えます。



かすかな光へ

田中 雅孝 特任研究員

高校教員の仕事を定年退職し、ここでの仕事に就いて五年が経ちました。私にとって、この間の学びは、三点程に集約できます。

第一は、史料保存と歴史研究の不可分な関係です。私は、これまで自分が直接対象とする史料を抜き出してきて事足りりとする傾向がありました。史料の山に向きあう史料保存作業を経験して、史料の残存の仕方自体に、人々が生きた痕跡が堆積しているという認識へと転換してきました。その経験は、蛸壺的な研究意識への解毒作用にもなったように思います。

第二は、本研究スタッフとの研究交流です。私のような社会科学から歴史にアプローチしてきた者は、理論倒れになりがちですが、近世史の精緻な史料操作や、建築史のフィールドワークに依拠した空間認識など、研究方法の自己革新へと刺激を得ることができました。

第三は、地域市民との交流経験です。最近では、市民の「歴史実践」と職業的研究者による「歴史研究」という言い方があります。ともすると、言葉が作られた本来の意味から逸脱して、権力的に両者を分断する発想に陥りがちでもあります。しかしながら、歴史の学びとしては、そこに本質的差異はないという実感を深めてきました。

百歳で没した教育学者の大田堯は、「生きることは学ぶこと」を説き続けました。あたかも、今日の世界は閉塞した時代状況に見えますが、かすかな光へと、地域の皆さんと共に、学びあい、歩んでいきたいものです。



※歴史研究所は2023年12月に設立20周年を迎えます。今号より、2003年12月の設立からこれまでの20年間を振り返るエッセイを掲載します。

地域の歴史にうもれて

齊藤 俊江（歴史研究所調査研究員）

1998年3月末に飯田市立中央図書館を退職して、翌日から市史編さん室（4年後、歴史研究所に移行）へ入った。今までの史資料を提供する立場から収集する立場へと逆転した。研究所へは地域史を編む最新の歴史学を学んだ若い研究員が着任、史資料の収集・整理・活用を指導され、私たちは飯田下伊那地域の紹介と今まで蓄積されてきた文献などを伝達した。

「この地域の歩みを日本や世界の歴史の中に位置づけ、自ら学びながら発信していく研究所」にしたいと努力してきた。今後もそうあってほしい。

そして「アカデミア」の形で歴史学の専門講師の講演を飯田にいて多くの市民と共に聴講できた。第1回目「21世紀の地域創造とアーカイブズ（文書館）の役割」安藤正人先生、第2回目「満州移民とオーラルヒストリー法 一体験を語りつぐこと一」蘭信三先生。「アカデミア」は今まで98回行った。

私の歴史研究はここから始まったといっても過言ではない。各旧役場史料の整理と満洲移民関係史料調査、市民有志と取り組んだ満洲移民帰国者からの証言集の出版、岩手や福島など戦後再開拓に挑んだ人々への訪問調査など、この地域と日本・アジアの歴史の繋がりと未来が見えてきた。研究の基盤となったのは市民の史資料提供、ゼミで学んだ方々との情報の共有、顧問研究員の指導であった。こうした中で出来なかったこともある。研究所へ5年任期で交代常勤した研究員・調査研究員（2020年度より特任研究員）20名のうち女性は調査研究員に2人いただけで、あとは男性が占めていたことである。若い女性の歴史研究者がほしかったし、育成する手筈もなかった。今後女性の視点で、研究がなされれば新たな地域史が編まれることだろう。



齊藤俊江さん

新刊案内

2023年3月 刊行

史料で読む 飯田・下伊那の歴史3
山里 南信濃のあゆみとくらし
飯田市歴史研究所 編 B5判 84頁 定価 1,300円



南信濃地区をフィールドにして様々な史料調査を行ってきました。その成果の一端を紹介するため、『史料で読む 飯田・下伊那の歴史3 山里 南信濃のあゆみとくらし』を刊行しました。本書では、近世～現代までの南信濃の史料を取り上げ、丁寧に読解することを通して同地区の歴史を描こうとしています。江戸時代の樽木や近代に入ってから王子製紙の進出や戦後の小学校における教育、茶栽培の試み、霜月祭継承のための試みなど、幅広いテーマを取り扱っています。南信濃地区の豊かな歴史を感じていただけたら幸いです。

1. 南信濃の白木口留番所 / 2. 樽木と遠山六カ村 / 3. 和田村・八重河内村の駄賃稼 / 4. 山里における地図調製 一明治期の和田村外四カ村 / 5. 和田村の赤痢流行と行政の混乱 / 6. 日露戦争と遠山青年会 / 7. 王子製紙の進出と山林労働 / 8. 町村長会の満洲視察と南信濃村の満洲移民 / 9. 飯島発電所建設と朝鮮人労働者 / 10. 都市の文化に触れる 一小学校の修学旅行 / 11. 遠山の茶栽培と地域の変貌 / 12. 遠山霜月祭の変化と継承 一小道木・川合における祭日改正

飯田アカデミア2023 第99講座

「満蒙開拓を語り継ぐ」を考える ～ドキュメンタリー制作者からの問い～ (仮)

戦後80年を迎えようとする日本で満蒙開拓を語り継ぐとはどういうことなのか。20年以上にわたる取材で出会った人々との対話を手がかりに満蒙開拓を問う現代的な意味を考えます。

講師 **手塚 孝典さん** (信越放送ディレクター)

日時 **6月24日** (土)

会場 **飯田市公民館 (ムトスぷらざ) 2階 多目的ホール** 資料代 **500円** ※高校生以下無料

申込み ①会場での受講 ②ご自宅等でのオンライン受講 のどちらかでご参加いただけます。
お申込み受付は**5月9日 (火)** からとなります。(オンライン受講の申込締切にご注意ください)
※詳細は次号に掲載いたします。

☆飯田アカデミアは、歴史学における第一線の研究者に、最新の研究成果をわかりやすく紹介していただくものです。

歴研ゼミ&ワークショップ4月・5月の予定

会場: 歴史研究所 研修室

新年度
受講生募集!!

近世史ゼミ

担当: 羽田真也 (研究員)
4月12日・26日 / 5月10日・24日
(第2・第4水曜日) 18:30~20:30

満洲移民研究ゼミ

担当: 本島和人 (調査研究員)
齊藤俊江 (調査研究員)
第135回 4月8日 / 第136回 5月6日
(第1土曜日) 10:00~11:40

近現代史ゼミ

担当: 田中雅孝 (調査研究員)
4月22日 / 5月27日
(第4土曜日) 10:00~11:40

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場
4月5日・19日 / 5月17日
(第1・第3水曜日) 19:00~21:00
※5月3日は祝日のため休講



ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL: 0265-53-4670

開所時間: 午前9時~午後5時 休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日
メール配信への切り替えをご希望の方は、E-mail: ihr@city.iida.nagano.jp まで